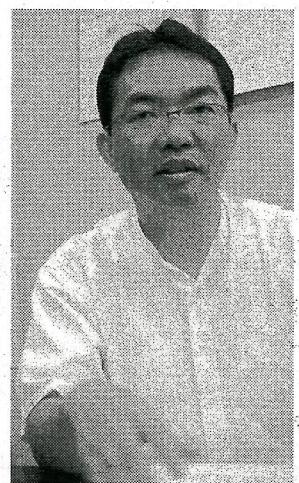


あなたの選択は間違っている

後悔しない治療



堀田医師



「最初に血尿が出てから3年以内に扁桃摘出術十回を鳴らすのは、扁摘パルス療法を受けたことがあります」

放置すると腎不全から人工透析に

なぜ血尿を軽視するなどIgA腎症の診療に熱くなれないのか? 実は、かつてIgA腎症は治らない病気ではあるけれど、腎不全に陥るケースは少

ない予後良好の病と考えられていました。そのため腎機能が低下し始めたら、がまだまだ多いからだ。%、30年で50%の患者さ

IgA腎症の患者が目立つ。仕事を追われているIgA腎症に対する考え方が劇的に大きく変わってきたのです。すなわち、Ig

週に3回、1回4~5時間の人工透析を受ける患者の負担は重い



「しかし、最近はIgA腎症は発症後20年で40%、30年で50%の患者さんが腎不全に陥り、人工透析を導入していることが判明しています。長い目で見ると予後不良の病気になります」となりかねない。

いまや人工透析を受けている患者は約29万人。昨年は約3万7000人。が新たに入人工透析を導入した。そのうち糖尿病性腎症に次いで多いと考えられているのが、IgA

期症状II血尿が軽視されいること。様子を見て癒・寛解します。血尿が進行する。

ステロイドパルス療法を確立した仙台会保険病院の堀田修医師（IgA腎症根治治療ネットワーク代表）である。

「これまでの尿潜血検査でも陰性的場合、尿沈査で変形した赤血球か、赤血球円柱のどちらかが見つかり、それが1年以上持

IgA腎症 血尿を見逃さず早期に 扁摘パルス療法受けける

続していたらIgA腎症の可能性が非常に高い」
尿沈査はほとんどの検査会社が請け負ってい

る。診療所や小さな病院でも、検査会社へ尿沈査を外注してもらうだけ

一方、IgA腎症を早期発見し、早期に扁摘パルス療法を試みれば、治癒・寛解することも確かめられてきた。それならば、早期発見の力が握られる腎尿は重要な兆候であり、患者自身が気をつけねばならないとの意識転換が不可欠である。